

令和3年度施政方針と予算

コロナ禍におけるまちづくり

令和3年第1回市議会定例会の初日、山下市長は令和3年度の施政方針を力強く訴えました。第2次総合計画の3年目となる本年度の予算は、同計画に掲げる重点プロジェクトに財源の重点配分を行い、予算を編成しました。それらの取り組みと予算を紹介いたします。



2019年12月、中国の湖北省武漢市から発生した新型コロナウイルスは、一年以上経った今でも全世界を覆い、猛威を振るっています。世界各国で多くの尊い命を奪い、多くの人たちの健康を奪い続けています。国内では、既に7,000人以上の方が亡くなり(令和3年2月26日現在)、深刻な容態の方も依然としていらっしやいます。いまだに主要都市の一部では危機的な状態が続いております。亡くなられた方に心からご冥福をお祈り申し上げます。そして感染された方にお見

舞いを申し上げますとともに、一日も早い回復をお祈りいたします。一方で、医療崩壊という言葉が毎日のように取り沙汰されています。当たり前のように私たちが享受できると考えていた我が国の医療が危機に瀕するなど誰が想像できたでしょうか。今、この時間も感染者を助けるために、自らを感染の危険にさらしながら治療にあたってくださっている医療関係者の皆さま、介護従事者の皆さまに、最大限の感謝と敬意を表したいと思います。そして、新型コロナウイルスの

脅威は、本市においても例外ではありませんでした。一年前と比べて、私たちの新型コロナウイルスに対する考え方や実情は大きく変わりました。「特別な感染症」から「誰がかかってもおかしくない感染症」というようにです。私たちは、ある地点から、このウイルスを他人ごとではなく自分のこととして向き合っていかなければならないと気付いたはずですが、

「健康」と「教育」を軸に
しかし、私たちはこうした環境の中でも、前に進んでいかなければなりません。前を向いて新しい生活の形を創造し、子どもたちから高齢者まで、市民の皆さまが安心して、安全に、この三豊市で豊かに暮らしていける環境を創り上げていかなければなりません。こうした意味で、私が今回の施政方針で強調したいのは、「健康」

と「教育」であります。どんなに生活が変化しようとも、どんな過酷な状況になろうとも「人」が元気で、「人」と「人」がつながりを深められる、そして子どもから高齢者までが等しく「学ぶ」ことのできる環境を創ることによって未来が開けると私は信じます。

また、この取り組みを補完するものとして、新しい生活の中で重要となる非接触型のコミュニケーションツールなどデジタル化についても取り組んでまいります。新型コロナウイルスとの戦いが続く一方、社会生活のデジタル化は劇的に、不可逆的な変化をみせています。学校ではオンライン授業が、企業ではテレワークやWeb会議が目覚ましく普及いたしました。これからの社会は、ITの浸透によって、人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させるデジタルトランスフォーメーション※が避けては通れないものであると考えております。

庁が設置されますが、デジタル社会の実現のためには、住民に身近な行政を担う基礎自治体の役割は、極めて重要となっております。本市では、昨年、AI・ICT等の先端技術やデータ活用などデジタルの力を最大限に活用し、タブレットによる死亡届後の手続きの省力化やオフィス改革などに取り組みでまいりました。今年度は、このような動きをより加速させるため、総務部内に「デジタル推進室」を設置いたします。デジタル化を進めることで、将来的には市役所に行かなくても自宅などからオンラインにより各種申請手続きが行えるなど、市民の皆さまの利便性の向上をめざしてまいります。そのためにもデジタル化の基盤となるマイナンバーカードの普及促進を図ってまいります。



▲みとよSDGs推進パートナーの申し込みは、地域戦略課(☎73-3011)まで!

ながら、人と人との対話を大切にし、市民一人ひとりが、一人ひとりを尊重し、学び合い、そして誰一人取り残さない持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。

令和3年度の市政運営において、市民の皆さまにワクチン接種を円滑に進めることが最重要事項であると考えておりますので、本市では、1月より健康福祉部内に「新型コロナウイルスワクチン接種対策室」を設置し、準備を進めています。市民の皆さまに安心して接種していただけるよう、医療機関とも連携し、万全の接種体制を確保するとともに、市民の皆さまからのさまざまなお問い合わせや相談に対応してまいります。



▲昨年6月、市民課窓口でタブレット端末を使った死亡届後の手続きのデジタル化(実証実験)をスタート

「SDGs 未来都市」として
本市は、内閣府より令和2年度「SDGs 未来都市」に選定されました。そして、今年からSDGsの推進に取り組む企業や団体を「みとよSDGs推進パートナー」として募集しています。この心強いパートナーをこれからも増やし

第2次総合計画に掲げたまちの将来像「One MITOYO」の心つながる豊かさ実感都市の「One」の意味が、くしくもその重要性を増しているように思います。私たち一人ひとりが元気に、三豊市という他にはない「このまち」で学び、「このまち」で豊かに暮らし続けるために、一丸となって難局を乗り越えていこうではありませんか。

※デジタルトランスフォーメーション……ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること
※SDGs……2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でより良い世界をめざすための目標

むすびに

新型コロナウイルスの感染を封じ込める自粛の影響は、社会全体に未曾有の被害を及ぼし、身近な生活においても多大な影響がありました。

特に子どもたちには、学校に行けない、友達と会えない状況を強いることになり、またクラブ活動や部活動も活動の自粛や大会の中止が相次ぎ、辛い1年となりました。最後の大会が中止となり、無念の思いをかみ殺す3年生の姿を伝えるニュースには、いかんともしがたい感情に襲われました。

また、東京オリンピック・パラリンピック大会が延期になり、甲子園やインターハイ、そして地域の各種スポーツ大会も中止になるなど、スポーツを取り巻く大きな環境の変化とともに、改めて「スポーツが持つ力の大きさ」に気付かされました。

新型コロナウイルスとの戦いは長期化の様相を呈しており、今後も予断を許さない状況が続くことが予想されます。そんな中でも未来を担う子どもたちの可能性を切り開き、人をひきつけるスポーツの力が地域活性化につながる施策を、積極的に進めてまいりたいと考えております。

特に、広大な面積を誇る宝山湖公園芝生広場におけるスポーツを核とした「宝山湖ボールパーク」の実現に向けて、ここに投資いただける企業の皆さまを呼びこみながら、全力で取り組んでまいります。市民の皆さまと一緒に、子どもたちが学び、彼らの夢を応援できる喜び、私たちが健康になれること、そして人が交流できる楽しみを実感できるように努めてまいります。

私たちの目の前には、人口減少による過疎化、高齢化など多くの課題が山積しています。将来を担う子どもたちが自由に夢を描きかなえられる、そして市民を誰一人取り残すことなく豊かさを実感できるまちの実現を、いまを生きる私たちみんなの総力戦でめざしてまいりたいと考えております。それこそが将来に向かって、持続・発展する三豊市の未来そのものです。まさに、その礎となるのが今回大きなテーマとして掲げた『健康』と『教育』であります。

市民の皆さまの一層のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げ、令和3年度に向けた施政方針といたします。

基本
目標

1 産業・交流 にぎわいが地域を元気に するまち

- ・養鶏業者への経済的支援
- ・薬用作物の栽培
『健康』にも関わりの深い薬用作物の栽培をさらに促進します
- ・「みとよのみ」プロジェクト
商品開発から販売促進へとステージを移し、地域ブランドとして育て上げます
▶「みとよのみ」から生まれた、地域の特色あふれる商品たち
- ・農業、漁業の担い手育成
- ・新規就農者の確保
- ・キャッシュレス決済ポイント還元、プレミアム付商品券、デジタル商品券事業を実施
- ・RVパーク※の整備
- ・MAiZM（みとよ AI 社会推進機構）による年代に合わせたプログラミング教室の開催、学生への起業支援



▶「みとよのみ」から生まれた、地域の特色あふれる商品たち

基本
方針

1 市民が可能性を切り開く まちづくり

「地域おこし協力隊」 制度の活用

地域外から本市へ生活の拠点を移し、さまざまな経験を生かしてチャレンジしようとする人を積極的に受け入れ、地域とともに応援します



▲現在活躍中の3人の地域おこし協力隊

基本
方針

2 効率的で健全な行財政運営

- ・第3次行政改革大綱の策定
- ・ふるさと納税による財源確保
返礼品の充実や周知方法の改善に取り組みます



▲返礼品として人気のシャインマスカット

※ RVパーク……道の駅などに設けた車中泊専用の駐車スペース

産業・交流



施政方針全文は市ホームページでご覧ください

基本
目標

2 知・体・心を育み、自分らしく暮らせるまち

- ・GIGA スクール構想※への取り組み

1人1台のタブレット端末配備により、一人ひとりの状況に合った学習指導（アダプティブラーニング※）を充実させます



- ・宝山湖公園の改修

プロサッカー選手でも十分に練習場として利用できるように、また人と人との交流イベントや健康づくりなどの拠点となる「宝山湖ボールパーク」の実現に向けて、取り組みます



▲宝山湖ボールパーク完成イメージ図

- ・夜間中学※の開校

義務教育を修了できなかった人や学び直しをしたい人、貧困により十分に教育を受けられなかった人などに当たり前の「学びの場」として、令和4年4月の開校をめざします



夜間中学ニーズ調査より（令和2年市教育委員会調査）

質問：夜間中学で学んでみたいと思いませんか？
または、まわりに知らせたいと思う人がいますか？
（複数回答あり）

自分が学んでみたい	105
身近にいる	35
思いつく人がいる・団体などがある	18
小計	158
学びたいと思わないし、まわりにもいない	153
合計	311

- ・三豊市総合体育館の改修
- ・給付型奨学金制度の創設

基本
目標

3 健康・福祉・医療 子どもが健やかに育ち、 生涯笑顔で暮らせるまち

- ・子育て世代包括支援センター「なないる」の取り組み内容の充実
- ・地域子育て支援センターやつどいの広場の環境整備
- ・発達障害支援の充実
- ・高齢者の特性に応じた保健事業と介護予防事業の一体的な取り組みの強化
- ・認知症の本人や家族への支援体制の充実
- ・高齢者などの権利擁護支援のための市民後見人の育成
- ・福祉タクシー助成対象の拡大
- ・令和4年春開院予定の市立新病院の建設

市民の皆さまにとって身近な病院となるよう、引き続き建設を進めます



基本
目標

4 暮らし 人と自然が守られる 定住のまち

- ・消防屯所や防災センターの建設による防災機能の充実
- ・都市計画マスタープラン（改訂）、立地適正化計画の公表
- ・詫間庁舎周辺および造船所跡地など地域の特性を生かせる整備事業の可能性の検証
- ・交通環境データの基盤構築
- ・バスロケーションシステムの導入、時刻表アプリの開発

コミュニティバスのリアルタイムな運行状況、遅延状況などが可視化できるようになります



▲時刻表アプリ画面イメージ

- ・道路などのインフラ整備
- ・空き家の適正な管理や利活用の促進
- ・若者世帯への住宅取得支援による若者定住と地域経済活性化の促進

※ GIGA スクール構想……1人1台の端末および高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備すること
※夜間中学……夜の時間帯に授業が行われる中学校

※アダプティブラーニング……個々の子どもの習熟度や興味などに応じた学習